

年会費2000円にご理解とご協力を



平成20年度校友会
県支部総会



■発行
早稲田大学校友会
鹿児島県支會
■住所
鹿児島市平之町8-13
平田橋ビル2F
☎099-223-8388

平成二十一年度早稲田大学校友会鹿児島県支部総会が、昨年七月二十六日鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで開催された。会には白井克彦総長他大学関係者をはじめ、約八十人の校友・在校生父母らが参加した。

午後五時から開かれた総会では、濱田紘一副支部長（S四三年、商学部卒）、白井総長の挨拶の後、議事に入り、平成十九年度事業報告及び決算報告のほか、支部役員

西の件などの議題がいづれも満場一致で承認された。また監査報告の中でも星原一博監事（S四五年教育学部卒）より、本年から実施することになった、年会と呼ばれる理解と協力がかかる費用二千円徴収に対する理解と協力がかかる。呼びかけられた。最後に大学側を代表して、口元周策念事業募金の状況目標を達成した記述などが報告された。

最後に大学側を代表して、口元周策校友会事務局長が挨拶に立ち、見事目標を達成した記念事業募金の状況などが報告され、などが報告され、た。

引き続き講演の
部に移り、白井総長により「二十一
世紀型のグローバル大学」という
演題でスピーチが行われた。

白井総長は、「世界中で経済格差が拡がる中、考え方や価値観の違う人々とどのように協力していくか、知恵を出し合なうことが求められている。今後はこのようないかなければならぬ。そのためテーマにチャレンジしていくような若者を、大学教育を通じて育てて、北京大学など、各国を代表する大学とも連携し、エネルギーや学技術の問題等を含め、幅広い取り組みを行つてゐる」と、グローバル化

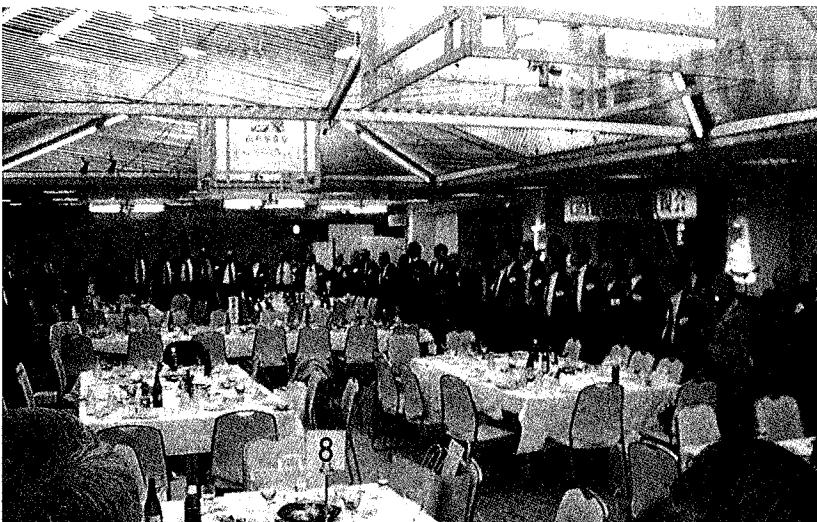


締めくくりは恒例により、応援部OBの西園靖彦氏（S四一年商学部卒）指揮による、校歌「都の西北」を、在学生父母もいつしよに、全員で肩を組み齊唱し、最後は十五代沈壽官・大迫一輝副支部長（S五八年教育学部卒）の五本綱で無事総会を締めくくった。

常任幹事 辛島史朗
南日本新聞社

OG、若手も多数参加

第十五回 鹿兒島早慶懇親会



初出會者

り締めの挨拶があり、無事幕を閉じた。

もまた岩坪信吉さん（S五二年社
会科学部卒応援部OB）のユーモ
アあふれる語りに、両校が盛り上
がるなか、全員が肩を組み、紺碧の
空・若き血のカレッジソングの大
合唱、エール交換と進んだ。

報告事務局長吉永岡

新県支部長に川畠孝則氏

豊山博美前支部長の急逝により、空席となつていた、校友会鹿児島県支部長を選出するため、一月三十一日、鹿児島市内のホテルで

の商議員にも選出された。これに

瀬田紹一

幹事会が開かれ、校友会規約に基づく選考の結果、新支部長に川畠孝則幹事が選出された。

また新幹事長には吉永剛事務局長、新事務局長には米盛庄一郎當任幹事を選出、所常任幹事によ

津曲貞利両常任幹事が新しく就任
されぞれ川畠氏とともに大學

幹事が就任し、それぞれ大学の代表にも選出された。

